

2020 年度決算について（概括）

2020 年度は第 2 次中期計画の 3 年次にあたり、教職員が一体となって財務改善計画の達成に向け努力してまいりました。収入面では学生生徒等納付金が増加するとともに、特別補助金や施設整備補助金等の獲得を図ったことにより補助金収入が増加となりましたが、2021 年度大学入学者の減少により前受金収入が計画比△43 百万円となり、収入全体で計画を下回りました。支出面においては、退職者の増加から前年対比人件費が増加するとともに、コロナ禍対応にかかる自宅学習支援金、賃貸住宅家賃支援金の支給等により教育研究費が増加しました。このほか、減価償却引当特定資産の繰入も引き続き実施しました。

以上の結果として、当年度の資金収支差額は、37 百万円の赤字、翌年度繰越支払資金は 9 億 72 百万円となりました。今後とも財務改善方策の着実な実行により、収支均衡のとれた安定的な学校運営に努めてまいります。

以下 2020 年度決算について財務三表に沿って概括します。

1. 資金収支について

資金収支計算書は当該年度に行った教育研究活動およびこれに付随する活動の全ての収入と支出の内容及び、支払資金(現金・預金)の顛末を明らかにするもので、企業会計ではキャッシュフロー計算書に相当するものです。

(1) 収入の部

法人全体では、資金収入合計 3,235,575 千円に前年度繰越支払資金 1,009,763 千円を加えた収入の部合計は 4,245,338 千円でした。学生生徒等納付金収入は、大学の学生数減少がありましたが、中学、高校、幼稚園の増加により、前年度決算と比較すると 13,353 千円増加し、2,252,126 千円となりました。また、補助金収入については、大学において就学支援制度補助金や中高の特別補助金獲得等により前年対比 91,825 千円増加の 731,481 千円となりました。このほか、寄付金収入については、一般寄付金、特別寄付金により実績は、予算を 41,475 千円上回り 61,475 千円となりました。しかしながら、大学入学者減少により前受金収入が予算を 42,685 千円下回りました。

以上の結果、収入合計額は、予算を 7,414 千円下回る 4,245,338 千円となりました。

(2) 支出の部

資金支出合計は、予算を 205,896 千円下回る 3,272,869 千円となりました。

人件費につきましては、2,195,363 千円で前年対比 150,451 千円増加しました。その内訳としては、退職金が前年比 178,743 千円増加したことによるものです。

教育研究経費支出につきましては、627,430 千円で、予算を 62 百万円下回りましたが、前年対比 148 百万円の増加となっております。これは、就学支援制度減免費用にて 72 百万円、新型コロナウイルス感染症にかかる自宅学習支援金を 51 百万円、法面復旧工事にて 27 百万円支出したためです。

また、管理経費につきましては、216,704千円となり、前年実績を41百万円、予算を17百万円下回っています。前年比減少はスクールバスの廃止にともなう業務委託費の31百万円削減が主因です。借入金利息支出は、前年対比1百万円減少の8,622千円となっております。

施設関係支出につきましては、計画に基づき、学生・生徒等の安心・安全で快適な教育環境の整備に努めた結果、62,063千円となりました。具体的には、大学のソフィア1号館エレベーターの更新工事、ヒノハラホール、アセンブリホールの空調更新工事、中学校図書館の改修工事等を実施しました。

設備関係支出は教育研究用機器備品の更新等、環境整備を行った結果、76,057千円となりました。資産運用支出については、中高体育館の建替えを目的とした減価償却引当特定資産の繰入を継続実施したことから、50,978千円となりました。

以上の結果、翌年度繰越支払資金は前年対比37,294千円減少し、972,469千円となりました。

2. 事業活動収支について

事業活動収支計算書は当該年度に行った教育研究活動に必要な諸経費の支出と収入から基本金組入額を控除した収支の均衡状態を明らかにし、経営状態を表すもので、企業会計では損益計算書に相当するものです。

(1) 教育活動収支

教育活動収入の合計は、3,251,075千円で、予算を62百万円上回り、前年対比188百万円の増加となっております。前年対比増加の要因は、経常費等補助金の76百万円増加、教職員退職に係る財団等交付額の122百万円増加等によるものです。教育活動支出は、予算を110百万円下回り、前年対比208百万円増加の3,441,456千円となっております。このうち退職引当金繰入を含めた人件費総額は、前年対比124百万円増加の2,158,380千円となり、経常収入に占める人件費比率は66.3%となりました。教育活動収支差額は、前年対比21百万円マイナスの△190,381千円となっております。教育研究経費1,061,074千円、管理経費222,001千円のうち減価償却の合計額は前年対比23百万円減少の438,207千円となりました。

他の収入、支出の内訳については、資金収支と重複しますので省略します。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入は受取利息・配当金2,049千円で、教育活動外支出は借入金利息8,622千円となり教育活動外収支差額は△6,573千円となっております。

教育活動収支差額を合算した経常的な収支状況である経常収支差額は、前年対比19百万円マイナスの△196,954千円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、深川の土地を国土交通省に売却した売却差額 5,233 千円、施設設備寄付金 7,690 千円、施設設備費補助金 22,643 千円と現物寄付 7,999 千円を合計した 43,565 千円で、インターナショナルハウス取り壊し等による特別支出 23,154 千円により、特別収支差額は 20,411 千円となっています。

(4) 基本金組入前当年度収支差額（経常収支＋特別収支）

基本金組入余力がどの程度あるのかを表す基本金組入前当年度収支差額は△176,543 千円となり、引続き厳しい財政状況となっています。

(5) 基本金組入額

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入れであり、189,975 千円を計上しています。過年度に整備した施設の借入金の返済による組入 123,880 千円や当年度中に行った建物・構築物の改修工事、教育研究用機器備品の購入、現物寄附による増加額 65,885 千円等を組入れたものです。

(6) 当年度収支差額

基本金組入額を加えた当年度収支差額は、△366,518 千円で、翌年度繰越収支差額は△11,245,878 千円となりました。

3. 貸借対照表について

当該年度末における資産、負債の内容、純資産の額を明らかにするもので、基本金に対する純資産の過不足状態を繰越収支差額として表しています。

(1) 資産の部

① 固定資産

[有形固定資産] は前年対比 311,633 千円減少しました。

建物： 270,545 千円減少

主な要因 当期増加額 56,216 千円、当期減少額 21,270 千円、当期減価償却額 305,491 千円

構築物： 19,647 千円減少

主な要因 当期増加額 5,846 千円、当期減少 271 千円、当期減価償却額 25,222 千円

教育研究用機器備品： 24,093 千円減少

主な要因 当期増加額 76,098 千円、廃棄 11,520 千円
当期減価償却額 88,671 千円

その他： 管理用機器備品が購入、現物寄附により 2,539 千円増加、車両が減価償却により 354 千円減少し、図書は購入、廃棄により 875 千円増加となっています。

[特定資産]

減価償却引当特定資産の組入れと第3号基本金引当特定資産の運用収益組入れにより 50,210 千円増加しました。

[その他の固定資産]

貸与奨学金の返済等により長期貸付金が 11,122 千円減少、ソフトウェアが減価償却により 3,838 千円減少しました。

② 流動資産

法人全体では、86,254 千円増加しました。主な要因は資金収支差額の赤字により現金預金残高が 37,294 千円減少したことと、退職者増加に伴い私学退職財団等からの交付金にかかる未収入金が 124,700 千円増加したことによるものです。

以上の結果、資産の部合計額は、前年対比 189,420 千円減少の 10,414,866 千円となりました。

(2) 負債の部

① 固定負債は 199,586 千円減少しました。

要因 長期借入金 Δ 134,480 千円 退職給与引当金 Δ 38,227 千円
長期未払金 Δ 26,879 千円

② 流動負債は 186,709 千円減少しました。

主な要因 未払金 210,946 千円 前受金 Δ 48,774 千円
預り金 14,577 千円 修学旅行預り金 154 千円

③ 負債の部合計

12,877 千円減少の 2,895,351 千円となりました。

(3) 純資産の部

① 基本金は当年度組入等により 189,975 千円増加の 18,765,394 千円となりました。

[第1号基本金] 189,765 千円組入増加

固定資産取得増加や 2020 年度中に支払の借入返済および未払金支払に係る組入から除去に伴う基本金額を差引した額

[第3号基本金] 210 千円組入増加

特定資産運用収益を今年度組入れた額

② 繰越収支差額

[翌年度繰越収支差額]

資産合計 10,414,866 千円— (負債合計 2,895,351 千円+基本金合計 18,765,394 千円) = Δ 11,245,878 千円

以上の結果、基本金から翌年度繰越収支差額を減算した純資産の部合計額は、前年対比 176,543 千円減少の 7,519,515 千円となりました。